



2026年12月期 第2四半期（中間期）決算短信〔日本基準〕（連結）

2026年8月7日

上場会社名 株式会社ユニバーサルエンターテインメント 上場取引所 東
コード番号 6425 URL <https://www.universal-777.com>
代表者 （役職名）代表取締役社長 （氏名）岡田 知裕
問合せ先責任者 （役職名）取締役CFO （氏名）佐藤 暢樹 TEL 03-5530-3055
半期報告書提出予定日 2026年8月7日 配当支払開始予定日 —
決算補足説明資料作成の有無：有
決算説明会開催の有無：有

（百万円未満切捨て）

1. 2026年12月期第2四半期（中間期）の連結業績（2026年1月1日～2026年6月30日）

（1）連結経営成績（累計）

（％表示は、対前年中間期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 中間純利益	
	百万円	％	百万円	％	百万円	％	百万円	％
2026年12月期中間期	76,566	23.1	10,219	—	3,128	—	62	—
2025年12月期中間期	62,175	△1.2	847	△74.0	△14,752	—	△9,874	—

（注）包括利益 2026年12月期中間期 △1,303百万円（－％） 2025年12月期中間期 △17,421百万円（－％）

	1株当たり 中間純利益	潜在株式調整後 1株当たり 中間純利益
	円 銭	円 銭
2026年12月期中間期	0.81	—
2025年12月期中間期	△127.43	—

（注）潜在株式調整後1株当たり中間純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

（2）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	％	円 銭
2026年12月期中間期	376,935	128,383	34.1	1,656.76
2025年12月期	373,634	129,687	34.7	1,673.58

（参考）自己資本 2026年12月期中間期 128,383百万円 2025年12月期 129,687百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年12月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2026年12月期	—	0.00	—	—	—
2026年12月期（予想）	—	—	—	0.00	0.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2026年12月期の連結業績予想（2026年1月1日～2026年12月31日）

（％表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	％	百万円	％	百万円	％	百万円	円 銭
通期	140,000	13.9	16,000	—	2,200	—	2,000	25.80

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当中間期における連結範囲の重要な変更：無

(2) 中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無

② ①以外の会計方針の変更：無

③ 会計上の見積りの変更：無

④ 修正再表示：無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）

2026年12月期中間期	80,195,000株	2025年12月期	80,195,000株
2026年12月期中間期	2,704,139株	2025年12月期	2,704,139株
2026年12月期中間期	77,490,861株	2025年12月期中間期	77,490,867株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数（中間期）

※ 第2四半期（中間期）決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 4「1. 当中間決算に関する定性的情報(5)連結業績予想について」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当中間決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) キャッシュ・フローの状況	3
(4) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
(5) 連結業績予想について	4
2. 中間連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 中間連結貸借対照表	5
(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書	7
中間連結損益計算書	7
中間連結包括利益計算書	8
(3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(会計方針の変更)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(中間連結キャッシュ・フロー計算書注記)	10
(セグメント情報等の注記)	11
(5) 追加情報	12
(6) 重要な後発事象	12

1. 当中間決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

足元の世界経済は引き続きインフレ圧力の動向や金融引き締めの影響に留意が必要な状況にあり、地政学的緊張の継続も相まって、不確実性の高い状況が続いています。資源価格については、外部環境の影響を受けやすく、これらの動向が各国経済に影響を及ぼしています。また、世界経済の成長については、引き続き減速が見込まれており、下振れリスクが意識される状況にあります。日本経済におきましては、雇用・所得環境の改善を背景に、景気は緩やかな回復基調が続いていますが、引き続き中東情勢の影響や金融資本市場の変動等に十分留意する必要があります。個人消費や設備投資には持ち直しの動きがみられる一方で、先行きについては外部環境の影響を踏まえ、慎重な見方も残っています。このような経済環境のもと、当社グループを取り巻く事業環境におきましても、引き続き不透明な状況が継続していると認識しています。

遊技機事業においては、当中間連結会計期間における総販売台数は87,915台となり、市場環境の変化に対応した商品投入及び販売施策の強化により、安定的な販売実績を確保いたしました。統合型リゾート(IR)事業では、オカダマニラが位置するエンターテインメントシティにおいて、インバウンド需要の回復が遅れているものの、マスマーケットを中心とした顧客基盤の強化や会員制プログラム「REWARD CIRCLE(リワードサークル)」のオファー内容をより充実させるなど各種プロモーション施策の展開により、来場者数及び非ゲーミング収益の底堅い推移が見られました。一方で、VIP顧客依存脱却に向けたプレミアムマスの層の開拓や、日本などアジア主要国に向けたマーケティング強化など、様々な取り組みを今年度に入り急ピッチで進めています。加えて、ホテル・料飲分野においても、イベント活用やブランド力の向上を背景に、今後の需要取り込みに向けた基盤強化を図っています。

以上の結果、当中間連結会計期間における売上高は76,566百万円(前年同期比 23.1%増)、営業利益は10,219百万円(前年同期 営業利益847百万円)、経常利益は3,128百万円(前年同期 経常損失14,752百万円)、親会社株主に帰属する中間純利益は62百万円(前年同期 親会社株主に帰属する中間純損失9,874百万円)となりました。

①遊技機事業

当中間連結会計期間における遊技機事業の売上高は45,926百万円(前年同期比 69.1%増)、営業利益は14,166百万円(前年同期比 173.7%増)となりました。また、調整後EBITDA⁽¹⁾は15,156百万円(前年同期比 148.3%増)となりました。

遊技機業界では、スマートパチスロの新台販売が好調に推移しており、稼働面でも市場全体を牽引する存在として人気を集めており、パチスロ市場は良好な環境が続いています。パチンコ市場は、全体的な稼働低迷の影響を受け、販売市場は引き続き縮小傾向にあります。

かかる状況下で当社グループは、パチスロ機においては、11年ぶりのミリオンゴッドシリーズ正統後継機『スマスロ ミリオンゴッド-神々の軌跡-』、総販売元として株式会社エンターライズ社製の『スマスロ パイオハザード RE:3』、女子ゴルフをテーマとした新規IPコンテンツ『スマスロ BIRDIE WING -Golf Girls' Story-』を販売しました。特に『スマスロ ミリオンゴッド-神々の軌跡-』は市場からの評価も高く、パチスロ市場を牽引する機種の一つとなっています。また、パチンコ機においては、ラッキートリガー(LT)3.0プラスを搭載した『eラグナドール 妖しき皇帝と終焉の夜叉姫』『e冥妃転生』の2機種の販売を行いました。

(1) 調整後EBITDA = 営業損益 + 減価償却費 + その他の調整項目

②統合型リゾート(IR)事業

当中間連結会計期間における統合型リゾート(IR)事業の売上高⁽¹⁾は30,126百万円(前年同期比 13.0%減)、営業損失は1,368百万円(前年同期 営業損失1,318百万円)となりました。また、調整後EBITDA⁽²⁾は2,736百万円(前年同期比 62.5%減)となりました。

当社グループが運営する統合型リゾート施設「オカダマニラ」においては、フィリピンにおけるゲーミング市場の競争環境の変化やマクロ経済の影響を受けつつも、オンラインと実店舗(ランドベース)を融合したオムニチャネル戦略を推進し、収益基盤の多様化に取り組みました。特に、オンラインゲーミング分野においては、この5月にPhilWeb社と提携し、新たなオンラインプラットフォームである『OKADA PLAY』をフィリピン国内向けにサービスを開始、来場者数の変動による影響の緩和を図るとともに、新たな顧客層の獲得を強化しています。また、大規模イベントの開催などを通じて非ゲーミング収益の拡充を図るなど、施設全体の収益力向上に向けた取り組みを強化いたしました。市場環境変化の影響を大きく受けたものの、コスト最適化の推進及び経営資源の重点配分を進めることで、収益構造の改善に向けた取り組みを着実に進めています。なお、第2四半期においては一部費用の増加が見られましたが、これは将来の成長及び事業基盤強化に向けた戦略的な投資を含むものです。さらに、外部評価においても、「トラベル+レジャー・ラグジュアリーアワード・アジアパシフィック 2026(Travel + Leisure Luxury Awards Asia Pacific 2026)」で2部門を受賞し、ブランド価値の向上が着実に進展しています。

(1) 売上高は、総売上高からゲーミング税及びジャックポット費用を控除したもの

(2) 調整後EBITDA = 営業損益 + 減価償却費 + その他の調整項目

③その他

当中間連結会計期間におけるその他の売上高は511百万円（前年同期比 37.1%増）、営業利益は279百万円（前年同期比 138.0%増）となりました。

メディアコンテンツ事業においては、App Store・Google Playにて『スマスロ ハナビ』『スマスロ マギアレコード 魔法少女まどか☆マギカ外伝』『スマスロ サンダーV』のシミュレーターアプリを配信しました。特に『スマスロ マギアレコード 魔法少女まどか☆マギカ外伝』は、App Store及びGoogle Playの有料（すべてのゲーム）ランキングで1位を獲得するなど多くのユーザーから高い評価をいただいています。また、月額制サービス「ユニバ王国」及び基本プレイ無料のソーシャルカジノゲーム「スロットストリート」では、各種ゲーム内イベントを継続的に実施し、新規ユーザーの獲得及び顧客満足度向上に努めています。楽曲配信においては、主要サイトApple Music・Spotify・YouTube Musicをはじめとする24サイトにて、『スマスロ ミリオンゴッド-神々の軌跡-オリジナルサウンドトラック I』『スマスロ ミリオンゴッド-神々の軌跡-オリジナルサウンドトラック II』『e冥妃転生オリジナルサウンドトラック』の配信を行いました。

なお、文化事業については、当第1四半期連結累計期間より収益の計上区分を「全社収益」から「その他」へ変更しています。これに伴い、前年同期の数値についても当該変更後の区分に組み替えて表示しています。

(2) 財政状態に関する説明

当中間連結会計期間末の総資産は376,935百万円となり、前連結会計年度末に比べ3,300百万円増加いたしました。その主な要因は、遊技機事業において新機種の開発と販売が堅調に推移したことなどにより、現金及び預金が3,448百万円増加したこと、有価証券が1,888百万円増加したこと、商品及び製品が322百万円増加したこと、仕掛品が311百万円増加したこと、原材料及び貯蔵品が1,901百万円減少したこと及び建物及び構築物が2,042百万円減少したことなどによるものです。

一方、負債については248,551百万円となり、前連結会計年度末に比べ4,604百万円増加いたしました。その主な要因は、外貨建社債が円安ドル高の影響により2,769百万円増加したことなどによるものです。

純資産については128,383百万円となり、前連結会計年度末に比べ1,303百万円減少いたしました。その主な要因は、親会社株主に帰属する中間純利益を62百万円計上したこと、円安ドル高の進行により子会社向けドル建て債権が増加する一方、子会社の現地通貨であるフィリピンペソがドルに比例して推移しなかったことなどにより為替換算調整勘定が1,308百万円減少したことなどによるものです。

(3) キャッシュ・フローの状況

当中間連結会計期間における各キャッシュ・フローの状況は以下のとおりです。

＜営業活動によるキャッシュ・フロー＞

税金等調整前中間純利益を3,173百万円計上し、主に遊技機事業において棚卸資産が1,266百万円減少したことや、遊技機事業や統合型リゾート(IR)事業において保有する設備の減価償却費を5,067百万円計上した一方で、法人税等の支払額として2,687百万円等を計上した結果、当中間連結会計期間の営業活動によるキャッシュ・フローは7,635百万円の収入（前中間連結会計期間は7,180百万円の収入）となりました。

＜投資活動によるキャッシュ・フロー＞

遊技機事業や統合型リゾート(IR)事業において、設備投資・維持更新により、有形固定資産の取得による支出を3,064百万円計上し、短期貸付金の回収による収入550百万円、その他の支出402百万円等を計上した結果、当中間連結会計期間の投資活動によるキャッシュ・フローは2,992百万円の支出（前中間連結会計期間は4,902百万円の支出）となりました。

＜財務活動によるキャッシュ・フロー＞

統合型リゾート(IR)事業において、設備投資資金の長期借入金の返済による支出を1,106百万円計上した結果、当中間連結会計期間の財務活動によるキャッシュ・フローは1,163百万円の支出（前中間連結会計期間は351百万円の支出）となりました。

以上に加え、現金及び現金同等物に係る換算差額△32百万円を加味した結果、現金及び現金同等物の増減額は3,448百万円となり、その他の現金及び現金同等物の増減額△2,478百万円を調整した結果、当中間連結会計期間末における現金及び現金同等物の残高は、前連結会計年度末に比べ969百万円増加し、37,248百万円となりました。

(4) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

①遊技機事業

遊技機業界では、スマートパチスロの堅調な稼働を背景に、継続的に設置シェアを伸ばしています。さらに話題性の高い新規IPコンテンツや人気シリーズの後継機種の投入が控えており、パチスロ市場は引き続き拡大傾向にあります。一方で、パチンコ機の全体稼働は依然として低調に推移していますが、ラッキートリガー(LT)3.0プラスを搭載した多彩なゲーム性の機種が登場しています。その中から市場で評価を得る機種も登場しており、今後も各社から試行錯誤を重ねた機種がリリースされることで市場の活性化が期待されています。

第3四半期の遊技機販売は、パチスロ機においては、総販売元として株式会社コナミアミューズメント社製の『戦国コレクション6』、コミカルな演出で人気を博するやじきた道中記シリーズの最新作『スマスロ やじきた道中記参る!』、パチスロの原点に立ち返るA PROJECTから『スマスロ タコスロ』の販売及び市場投入を実施しています。また、パチンコ機においては、『PA愛の不時着 99スイート ver.』の販売を開始しています。

当社グループは引き続き、独自性のある魅力的な遊技機の創出に努め、遊技機業界全体の活性化に貢献するとともに、販売シェアの拡大に努めてまいります。

(ご参考) 2026年12月期 パチスロ・パチンコ販売台数

	第1四半期	第2四半期	第3四半期(受注済)	第4四半期
販売台数(台)	26,378	61,537	26,000	未定

(注) 第2四半期までの実績については、「2026年12月期 第2四半期(中間期)決算説明資料」

(<https://www.universal-777.co.jp/ir/library/result/>) をご参照ください。

②統合型リゾート(IR)事業

フィリピンのゲーミング市場は、競争環境の変化やマクロ経済の影響を受けることが想定されるものの、中長期的には観光需要の回復及びオンラインゲーミング領域の成長を背景に、引き続き成長機会が存在するものと認識しています。このような環境の中、当社グループはオンラインと実店舗(ランドベース)の双方を強化する二面戦略を推進し、収益機会の最大化を図ってまいります。拡大するオンラインゲーミング市場の取り込みを進めるとともに、ランドベースにおいては、顧客体験の向上や集客施策の高度化により、事業収益の回復を目指します。また、足元の市場環境を踏まえ、コスト構造の最適化にも継続的に取り組み、効率的なオペレーション体制の構築を進めています。一方で、中長期的な成長を見据え、重点領域には選択的に投資を行い、ブランド価値及び競争力のさらなる向上を図っています。これらの取り組みにより、外部環境の変化に柔軟に対応しつつ、持続的な成長基盤の確立を目指してまいります。

③その他

メディアコンテンツ事業においては、App Store・Google Playにて、引き続き高品質なシミュレーターアプリや楽曲の配信を行ってまいります。また、月額制サービス「ユニバ王国」及び基本プレイ無料のソーシャルカジノゲーム「スロットストリート」では、各種サービスの改善やゲーム内施策を通じて、ユーザー満足度の向上及び新規ユーザーの獲得に努めてまいります。なお、楽曲配信では、8月上旬より『パチスロ やじきた道中記 オリジナルサウンドトラック インスト楽曲集』『パチスロ やじきた道中記 オリジナルサウンドトラック 歌楽曲集』を順次提供してまいります。

(5) 連結業績予想について

2026年12月期の通期連結業績予想につきましては、2026年2月12日に公表した内容から変更はありません。

2. 中間連結財務諸表及び主な注記

(1) 中間連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2025年12月31日)	当中間連結会計期間 (2026年 6 月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	40,000	43,448
受取手形及び売掛金	5,041	2,555
電子記録債権	1,536	4,387
有価証券	121	2,009
商品及び製品	2,673	2,996
仕掛品	15,442	15,753
原材料及び貯蔵品	12,533	10,631
その他	17,381	16,915
貸倒引当金	△1,314	△1,229
流動資産合計	93,415	97,469
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	152,939	150,896
機械装置及び運搬具	10,489	10,685
建設仮勘定	4,388	4,355
リース資産（純額）	19,102	18,797
その他	11,236	11,061
有形固定資産合計	198,155	195,796
無形固定資産		
その他	1,466	1,423
無形固定資産合計	1,466	1,423
投資その他の資産		
投資有価証券	9,955	10,021
長期預け金	9,630	9,980
関係会社長期預け金	23,868	24,754
関係会社長期未収入金	7,553	6,474
その他	35,795	37,341
貸倒引当金	△6,876	△6,902
投資その他の資産合計	79,927	81,669
固定資産合計	279,549	278,889
繰延資産	670	576
資産合計	373,634	376,935

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2025年12月31日)	当中間連結会計期間 (2026年 6 月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	3,205	2,351
電子記録債務	3,063	562
1年内返済予定の長期借入金	2,533	3,543
未払金	4,521	6,947
未払費用	8,505	9,471
未払法人税等	2,086	3,441
賞与引当金	95	745
その他	17,628	18,589
流動負債合計	41,639	45,653
固定負債		
社債	62,999	65,769
長期借入金	67,884	66,030
退職給付に係る負債	1,474	1,600
リース債務	60,949	61,380
その他	8,999	8,118
固定負債合計	202,307	202,898
負債合計	243,947	248,551
純資産の部		
株主資本		
資本金	98	98
資本剰余金	18,828	18,828
利益剰余金	111,189	111,251
自己株式	△7,299	△7,299
株主資本合計	122,816	122,878
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△33	△91
為替換算調整勘定	6,894	5,586
退職給付に係る調整累計額	10	10
その他の包括利益累計額合計	6,871	5,504
純資産合計	129,687	128,383
負債純資産合計	373,634	376,935

(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書

(中間連結損益計算書)

(単位：百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2025年1月1日 至 2025年6月30日)	当中間連結会計期間 (自 2026年1月1日 至 2026年6月30日)
売上高	62,175	76,566
売上原価	25,829	34,299
売上総利益	36,345	42,266
販売費及び一般管理費	35,497	32,047
営業利益	847	10,219
営業外収益		
受取利息	378	360
受取配当金	16	24
為替差益	—	446
持分法による投資利益	1,324	577
物品売却益	—	40
受取補償金	—	35
その他	136	119
営業外収益合計	1,854	1,604
営業外費用		
支払利息	4,380	5,063
社債利息	3,382	3,511
為替差損	8,020	—
支払手数料	4	3
貸倒引当金繰入額	1,521	0
その他	145	115
営業外費用合計	17,455	8,695
経常利益又は経常損失(△)	△14,752	3,128
特別利益		
固定資産売却益	28	24
賠償金収入	3,512	40
その他	2	—
特別利益合計	3,544	64
特別損失		
固定資産除売却損	83	4
関係会社株式評価損	4	8
訴訟関連損失	350	—
減損損失	—	7
特別損失合計	437	20
税金等調整前中間純利益又は税金等調整前中間純損失(△)	△11,645	3,173
法人税、住民税及び事業税	117	4,042
法人税等調整額	△1,889	△932
法人税等合計	△1,771	3,110
中間純利益又は中間純損失(△)	△9,874	62
非支配株主に帰属する中間純利益	—	—
親会社株主に帰属する中間純利益又は親会社株主に帰属する中間純損失(△)	△9,874	62

(中間連結包括利益計算書)

(単位：百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2025年1月1日 至 2025年6月30日)	当中間連結会計期間 (自 2026年1月1日 至 2026年6月30日)
中間純利益又は中間純損失(△)	△9,874	62
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△35	△58
為替換算調整勘定	△7,323	△1,309
退職給付に係る調整額	46	—
持分法適用会社に対する持分相当額	△234	1
その他の包括利益合計	△7,547	△1,366
中間包括利益	△17,421	△1,303
(内訳)		
親会社株主に係る中間包括利益	△17,421	△1,303
非支配株主に係る中間包括利益	—	—

(3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2025年1月1日 至 2025年6月30日)	当中間連結会計期間 (自 2026年1月1日 至 2026年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前中間純利益又は税金等調整前中間純損失(△)	△11,645	3,173
減価償却費	9,793	5,067
減損損失	—	7
有形及び無形固定資産除売却損益(△は益)	54	△19
関係会社株式評価損	4	8
持分法による投資損益(△は益)	△1,324	△577
受取利息及び受取配当金	△394	△385
支払利息	4,380	5,063
社債利息	3,382	3,511
為替差損益(△は益)	7,764	△292
貸倒引当金の増減額(△は減少)	1,531	△81
売上債権の増減額(△は増加)	404	△368
棚卸資産の増減額(△は増加)	308	1,266
仕入債務の増減額(△は減少)	△410	△3,221
未払消費税等の増減額(△は減少)	437	423
未収入金の増減額(△は増加)	57	△786
未払金の増減額(△は減少)	△859	2,526
その他の流動資産の増減額(△は増加)	60	△732
その他の流動負債の増減額(△は減少)	△1,726	1,588
その他の固定負債の増減額(△は減少)	39	166
その他	768	△496
小計	12,625	15,842
利息及び配当金の受取額	80	124
利息の支払額	△5,463	△5,643
法人税等の支払額又は還付額(△は支払)	△61	△2,687
営業活動によるキャッシュ・フロー	7,180	7,635
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△3,662	△3,064
有形固定資産の売却による収入	—	50
無形固定資産の取得による支出	△300	△170
投資有価証券の取得による支出	△5	△5
短期貸付金の回収による収入	60	550
長期貸付金の回収による収入	189	50
その他	△1,184	△402
投資活動によるキャッシュ・フロー	△4,902	△2,992
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入金の返済による支出	△299	△1,106
その他	△52	△56
財務活動によるキャッシュ・フロー	△351	△1,163
現金及び現金同等物に係る換算差額	△938	△32
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	987	3,448
現金及び現金同等物の期首残高	23,795	36,279
その他の現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△2,385	△2,478
現金及び現金同等物の中間期末残高	22,397	37,248

(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(中間連結キャッシュ・フロー計算書注記)

※1. 現金及び現金同等物の中間期末残高と中間連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は下記のとおりであります。

	前中間連結会計期間 (自 2025年1月1日 至 2025年6月30日)	当中間連結会計期間 (自 2026年1月1日 至 2026年6月30日)
現金及び預金勘定	24,768百万円	43,448百万円
その他	△2,385(※2)	△6,199(※2)
預入期間が3ヵ月以内の譲渡性預金	14(※3)	—
現金及び現金同等物	22,397	37,248

※2. 当社グループの一部の銀行借入について、債務返済準備金口座(DSRA)が設定されており、連結キャッシュ・フロー計算書における現金及び現金同等物の定義を満たさない引き出し制限のある預金が存在するため、当該金額を減額しているものです。

※3. 預入期間が3ヶ月以内の譲渡性預金は、中間連結貸借対照表の有価証券に含まれております。

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

I 前中間連結会計期間(自2025年1月1日 至2025年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注2)	中間連結 財務諸表 計上額 (注3)
	遊技機事業	統合型 リゾート (IR)事業	その他 (注1)	報告 セグメント計		
売上高						
外部顧客への売上高	27,159	34,641	372	62,173	1	62,175
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	324	324	△324	—
計	27,159	34,641	697	62,498	△323	62,175
セグメント利益又は損失(△)	5,175	△1,318	117	3,975	△3,127	847

(注1)「その他」の区分は、文化事業、メディアコンテンツ事業等を含んでおります。

文化事業については、当中間連結会計期間より収益の計上区分を「全社収益」から「その他」へ変更しております。これに伴い、上記の表の数値についても当該変更後の区分に組み替えて表示しております。

(注2)セグメント損失の調整額には各報告セグメントに分配していない全社費用3,127百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費であります。

(注3)セグメント利益は、中間連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当中間連結会計期間(自2026年1月1日 至2026年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注2)	中間連結 財務諸表 計上額 (注3)
	遊技機事業	統合型 リゾート (IR)事業	その他 (注1)	報告 セグメント計		
売上高						
外部顧客への売上高	45,926	30,126	511	76,564	2	76,566
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	3	335	339	△339	—
計	45,926	30,129	847	76,903	△336	76,566
セグメント利益又は損失(△)	14,166	△1,368	279	13,077	△2,858	10,219

(注1)「その他」の区分は、文化事業、メディアコンテンツ事業等を含んでおります。

文化事業については、当中間連結会計期間より収益の計上区分を「全社収益」から「その他」へ変更しております。

(注2)セグメント損失の調整額には各報告セグメントに分配していない全社費用2,858百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費であります。

(注3)セグメント利益は、中間連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

当期の減損損失7百万円に関しては、その他事業のものになります。

(5) 追加情報

該当事項はありません。

(6) 重要な後発事象

該当事項はありません。